



慶應義塾大学ビジネス・スクール

日本理化学工業の障がい者雇用

5

日本理化学工業は、1937年に設立されたチョークメーカーである。1959年、養護学校の先生から職場実習の依頼を受けたことが障がい者雇用のきっかけとなった。はじめは職場実習の2週間だけ引き受けようと考えていたが、知的障がい者の一心不乱に働く姿に心を打たれ、本格的に障がい者雇用を始めた。

10

「知的障がい者が、働く幸せを気づかせてくれた。」大山泰弘氏（会長、2018年現在）はそう語った。障がい者雇用を始めた当時、大山氏は知的障がいを持ちながらも毎日満員電車で通勤する社員たちの姿を見て、何故そこまでするのかと疑問に思っていた。苦労して通勤し会社で働くより、施設にいた方がずっと楽だと考えたからである。

ある日、大山氏が法事の席で禅寺の住職にそのことを相談すると、その住職は、「人間の究極の幸せは、人に愛されること、人にほめられること、人の役に立つこと、人から必要とされることの4つであり、働くことによって愛以外の3つの幸せは得られる。企業が人を幸せにしているのだ。」と答えた。それ以来、日本理化学工業では、障がい者であっても働くことにより幸せになれる職場づくりを目指し、「皆働社会」の実現へ向けた経営を貫いてきた。その根幹にある経営姿勢は、会社は売上や利益を上げるために存在しているのではなく、本当に人々に必要とされ、社員たちも誇りをもって働くことができる結果として、皆が幸福を感じることができる、そんな会社になるために存在しているという信念であった。

15

当初は2名だった知的障がい者数も64名（うち重度障がい者26名）まで増加し、全従業員86名の70%以上を障がい者が占めている。それでも拘らず、ダストレスチョークシリーズでは、国内シェア70%以上を占める業界トップ企業となった。「日本でいちばん大切にしたい会社」（坂本光司著・あさ出版）、カンブリア宮殿（テレビ東京系）、報道ステーション（テレビ朝日・ANN系）等にも取り上げられ、注目度の高い企業のひとつである。

20

加えて、大山氏は企業家のるべき姿を実践している経営者に贈られる渋沢栄一賞を2009年に受

25

本ケースは、2014年から2018年にかけて実施した日本理化学工業の大山泰弘氏、大山隆久氏へのインタビュー、障がい者雇用実践セミナー～会社を元気にする戦略的CSR～（2015年4月15日、東京）の講演内容、および、同社のホームページや出版物をもとに作成された。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は<http://www.bookpark.ne.jp/kbs/>から。

30

Copyright ©守屋 剛（2019年1月作成）